建材・流通加工

合成スラブ工業会

昨年度活動実績を報告

今年度は学生向けに工法をPR

合成スラブ工業会（会長＝沖健・JFE建材取締役）はこのほど、17年度活動実績と18年度活動計画を発表した。「合成スラブの健全な普及と発展」を目的に今年度も引き続き品質管理状況の調査や各種講習会を実施するほか、下期には「デッキプレート床構造設計・施工規準」の改訂版を刊行する予定だ。

沖会長

同工業会は会員各社の製品が法令、基・規準に適合するか、品質管理が適正か否かを把握するため、会員企業4社全9工場に品質管理状況報告書の提出を義務づけるとともに、各工場の実地調査を定期的に行っている。前者は全工場から半期ごとに提出される報告書に基づき、実際に製造されたデッキプレートの板厚・高さ・有効幅などの管理状況を確認するもの。後者は技術広報委員が各工場の製造現場を3年ごとに視察、品質管理状況を検分する。

このうち17年度実地調査は、JFE建材・九州工場、日鉄住金建材・戸畑工場の2工場が対象。調査では「合成スラブ用デッキプレート品質管理規定」の同管理基準に依拠し、QC工程図や規格・基準類の確認、製造中の製品形状寸法の測定、出荷準備中製品（3物件分）の板厚測定とミルシートとの照合などを行った。

17年度は2種の調査を通じて会員各社のデッキプレートが適正に品質管理されていることを確認した。18年度も両調査を継続実施し、実地調査はJFE建材・神戸工場、日鉄住金建材・野木製造所、同・北海道工場（北海道シャーリング）、明治鋼業・浦安工場の3社4工場が対象となる。

また、施工技術の向上を図る啓蒙活動の一環として「焼抜き栓（SPW）溶接講習会」を開催している。17年度は全国10カ所で合計187名（うち更新7名）が受講し、同講習会を始めた02年からの累計受講者数は約2970名となった。18年度は埼玉、千葉、大分、京都、新潟、岩手、岡山、三重、熊本、沖縄の10カ所で同講習会の開催を計画する。このほか、「デッキプレート床構造設計・施工規準講習会」をフラットデッキ工業会と共催している。

昨年度からの継続事業のうち、『デッキプレート床設計・施工規準―2004』の改訂作業が大詰めを迎え、今年度下期中の改定版刊行を目指す。さらに、「JIS K5674 鉛・クロムフリーさび止めペイント」を使用した鉄骨梁に合成スラブ用デッキプレートを焼抜き栓溶接で施工した場合の溶接部性能確認試験の結果がこのほどまとまった。一般さび止め塗料を使用した梁部材への施工と同等の性能が確認されたとし、この試験結果を工業会のホームページや講習会で近日中に公開する。

18年度は新たな試みとして大学、高専の建築学部・学科の学生に合成スラブ工法を紹介するためのパンフレットを作成する。同工法の認知度アップと一層の普及を図り、デッキ業界に若い人材を呼び込む足がかりにもしたい考えだ。